

平成31年2月

## 普及活動報告

### 京都丹波スマート農業勉強会(第1回) を開催

(全域：7日)

今回は総論編として、府農林水産技術センターの技師が農業分野におけるICT等先端技術導入の動きに関する行政からみた問題意識や今後の振興方針について、続いて通信分野からの切り口で農林水産業に進出している企業から、昨今の取組について講演が行われました。普及センターは、年度当初から企画に関わるとともに、農業者への開催案内及び当日の司会を担当しました。

事前申込のおよそ2倍に当たる約50名の農業者が参加され、閉会後に講師との名刺交換や質問のために行列ができるなど、関心の高さがうかがえました。この勉強会は2回シリーズで企画し、第2回は2月27日(水)午後、農林センターにおいて、府の研究機関が生産現場におけるICT活用事例(水稲編・野菜編)と題して講演を行いました。

場 所 京都学園大学  
出席者数 120名(学生含む)



農業者と学生あわせて100名以上が聴講

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年2月

## 普及活動報告



粒の形状や色を吟味する審査員



普及センター所長賞に輝いた小豆

### ～生産者の技術が光る～ 瑞穂大納言小豆品評会を開催

(京丹波町：7日)

昨夏の高温・干ばつや9～10月の相次ぐ台風により、例年と比較して小豆の収量が少ない傾向にある中、18点が出品されました。瑞穂大納言の特徴である大粒・俵型・色の鮮やかさを基準に審査し、賞の選出を行いました。入賞者は排水対策や土寄せ等の栽培管理を丁寧に行われており、適期作業や基本技術の徹底の大切さを再確認できました。

入賞5点はいずれも品質の優れたものでした。入賞者には3月2日に行われる小豆・黒大豆生産者大会において表彰を行います。普及センターは今後も、高品質な小豆生産に向けた支援を行います。

場 所 JA京都瑞穂支店

出席者数 16名

小豆生産量 (H29瑞穂) : 7,789kg

京丹波町農業技術者会議瑞穂地域部会は京丹波町、JA、農業共済、南丹広域振興局、普及センターで構成

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年2月

## 普及活動報告

### 「畑女子in京都丹波」の研修会を開催

(全域：7日)



各自の今年の目標を宣言！

普及センターから、京の農林女子ネットワーク第3回研修会での田野島先生の講義内容の報告と、根菜の味噌シチューの試食を通じて野菜を売る工夫について提案し、意見交換しました。また、雇用の大変さや台風被害に遭ったハウスの復旧について等、参加者が日頃の思いを話し合い、最後に各自の今年の目標を発表しました。

次年度の活動として「季節毎の日々の献立をどうしたらバランスの良い食事になるか、勉強したい」「簿記記帳を教えて欲しい」等の意見が出されました。普及センターはメンバーの経営向上につながる支援を引き続き行います。

場 所 園部総合庁舎

出席者数 9名

畑女子in京都丹波のメンバーは11名（管内農家20～40歳代の女性）

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年2月

## 普及活動報告



審査員による厳正な審査



高品質な黒大豆が多数出品

### ～甲乙付けがたい高品質の「和知黒」が集まる～黒大豆求評会を開催

(京丹波町：12日)

今年度の黒大豆は7、8月の高温・干ばつや9月以降の台風、寡照などの影響により、大幅な収量減となりました。そのような厳しい状況の中でも、求評会には生産者の優れた栽培技術により作られた黒大豆27点が出品されました。黒大豆の特徴である粒の大きさや形に重点を置き、出席者全員での一次審査の後、普及センター職員を含む審査委員6名で最終審査を行い、特別賞5点を選出しました。

審査長である普及センター所長が「本年のような厳しい栽培条件の中、素晴らしい出品物が集まり非常に驚いた。生産者の技術の高さがうかがえた」と講評しました。本求評会の結果が、生産者の意欲増進とさらなる高品質栽培につながることを期待しています。

場 所 JA京都和知支店

出席者数 15名

平成30年度京丹波町の黒大豆栽培面積は66ha、JA京都和知支店への出荷量は2,800kg(昨年度8,100kg) 求評会出品点数：30年度27点 29年度34点 28年度30点

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年2月

## 普及活動報告

### 平成30年度南丹地域農業士総会・研修会 が開催される

(全域：13日)



入・退会者の紹介



研修会

総会の議案は全て承認され、農業士会の将来の組織体制づくりに向けた意見が述べられました。また、研修会では農研機構の研究者から温室の気象災害低減技術について講演いただき、具体的なビニルハウスの補強方法等について、活発な質疑応答がなされました。

参加された農業士から「風洞実験等の結果には説得力があった。現場に活かせる技術を目的とした内容で、さっそく試してみたい」との声がありました。普及センターは今後も、農業士活動を支援していきます。

場 所 園部総合庁舎  
出席者数 47名

南丹地域農業士会 会員数34名（指導農業士17名、女性農業士10名、青年農業士7名）

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年2月

## 普及活動報告

### 黒大豆の視察研修会が開催される

(京丹波町：13日)



黒大豆の栽培事例について報告

JA京都丹波支店生産振興会が、黒大豆生産者を対象とした研修会を開催しました。普及センターからは、栽培事例からみた30年産黒大豆の減収要因分析や、排水対策やかん水、こまめな土寄せによる根域、根量の確保が重要であることを説明しました。その後、販売先である小田垣商店を訪問し、実需者の声を直接聞き、重要な産地であることの認識を新たにしました。

視察先の小田垣商店では、トップブランドの黒大豆産地として大きな期待が寄せられていることを生産者と関係機関が共有し、次年度に向けた生産意欲の向上に繋がりました。



黒大豆の仕上選別を見学

場 所 JA京都丹波支店  
兵庫県篠山市  
出席者数 27名

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年2月

## 普及活動報告

### 伏見とうがらしの安定生産に向けて ～病害対策実証ほを設置～

(京丹波町：20日)



前作の生育状況（白絹病により欠株が目立つ）

昨年、伏見とうがらしの栽培では、各地で白絹病の発生が確認されました。当該農家のハウスでは、白絹病による枯死株率が30～50%にも達し、経営上、大きなマイナス要因となったことから、特産物育成協議会の取組として、今年産に向けた実証ほを設置しました。第1段階として、発生要因の一つである前作の残根を枯死させるため、新たに適用拡大された土壌くん蒸剤のかん注処理を実施しました。

処理時間は1棟当たり20分程度で、生産者は「効果が確認できれば今後も取り組みたい」とのことでした。1か月間ハウスを密閉、くん蒸した後、第2段階としてVS堆肥を施用し、未熟有機物の分解促進により、白絹病の発生減少を目指します。

場 所 京丹波町下山

出席者数 6名

実証ほ設置規模：2a×3棟（うち2棟は土壌くん蒸処理+VS堆肥、1棟はVS堆肥のみ）

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年2月

## 普及活動報告

### 京都丹波地域の農業について説明しました～第1回農福連携フォーラム in 京都丹波～ (全域：21日)



開会前から多くの関係者が参集

参加者の多くは普段農業に接することがない方であるため、わかりやすさを優先し、平易な用語で説明しました。内容は、農業生産額や就業人口など府全体に占める管内の状況、米の食味ランキングで連続特A評価獲得のキヌヒカリ、黒大豆や小豆等の特産物の紹介とし、最後に管内農業の特長と問題点を解説しました。

当初の想定を大幅に上回る参加があり、関係者の農業に対する期待の高さを感じました。普及センターでは、来年度も事業所職員及び就農希望者を対象に、京都丹波就農サポート講座を開催するなど支援を行います。



管内農業の概要を説明

場 所 亀岡市役所  
出席者数 108名

京都丹波就農サポート講座 H30は支援事業所の職員が4名受講（修了者は計29名）

京都府南丹農業改良普及センター



平成31年2月

## 普及活動報告



畝間の滞水状況と改善方法の説明



額縁排水溝の効果の確認と設置のポイントを説明

### ネギ生産法人従業員の栽培技術向上を支援 (亀岡市：28日)

同社が平成26年に設立されて以来、普及センターは経営支援を行っており、今回は単収及び品質低下の大きな原因となっている湿害を回避するための研修会を開催しました。地下水位の高さが根域に及ぼす影響や、排水対策の重要性の理解を促すとともに、降雨直後のほ場での畝間の滞水状況や、額縁排水溝の効果を見ながら、どのようにして排水を図るべきかについて説明しました。

その結果、ネギの特性と排水の重要性について理解が進むとともに、降雨に左右されにくい畝立ての手順についても意見交換し、今後の作業に活かしていくこととなりました。普及センターでは引き続き、農業法人の経営支援を行います。

場 所 南丹市八木町  
出席者数 7名

(株)西陣屋ネギ栽培面積：平成30年 約20ha (亀岡市、南丹市)